

世田谷散策と「謀叛論」

大津 隆文

当クラブの散策の会では三月二十七日に世田谷散策を計画している。主な立ち寄り先は松陰神社と豪徳寺。祀られているのが著名な吉田松陰、井伊直弼で、二人の因縁は浅からぬものがある。井伊直弼の断行した安政の大獄で松陰は刑死し、直弼も水戸浪士等によつて命を奪われた。私がこの因縁をはつきり認識したのは井沢元彦著「逆説の日本史」第27巻中の「大逆事件の謎」を読んだお蔭であつた。そして同書で紹介されている徳富蘆花の「謀叛論」に大いに感銘を受けた。

大逆事件が起きたのは一九一〇年、幸徳秋水が処刑されたのが翌年一月、徳富蘆花は桂太郎総理、さらには天皇陛下宛に助命嘆願書を記した（彼はキリスト教信者で熱心な死刑廃止論者であつた由）。

偶然この頃彼は一高生から講演の依頼を受け、その題を「謀叛論」とした。翌二月一高講堂で彼は弁ずる、

「自分の住まい（現在の蘆花恒春園）から東京に出る時、世田谷を通ると途中豪徳寺と松陰神社が見える。切りつ切られつた兩人も谷一重のさし向い、安らかに眠っている。五十年後の現在から見ると、二人は今日の日本を造り出すために反対の方向から相槌を打つたのだ」

「諸君、幸徳君らは時の政府に謀反人と見做されて殺された。諸君、謀反を恐れてはならぬ。自ら謀反人となるのを恐れてはならぬ。新しいものは常に謀反である」

満堂の一高生の感銘は大きく、後に名を成す河上丈太郎、河合栄治郎、森戸辰男、矢内原忠雄等も胸を打たれ、所感を残したとのことである。

松陰神社に隣接して元総理大臣桂太郎の墓所がある。彼の総理在任通算期間は安倍晋三総理に破られるまで、歴代最長であつた。日露戦争当時の総理であつたほか、大逆事件も彼の内閣で取り上げられた。長州出身者として、松陰神社の隣に葬られることを希望したようだが、今訪れる人はどれだけいることだろうか。

世田谷散策のゴールは京王線下高井戸駅前の焼き鳥屋、四駅先の芦花公園駅にあるのが蘆花恒春園だ。